

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	立命館大学	整理番号	a034
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	プロジェクトを基礎とした人社系研究者養成 (プロジェクトベースプログラムの構築)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) その他人社系分野を主とする複合分野		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (哲学・倫理学、規範経済学、生命倫理、多言語・多文化主義、芸術表象)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名	
	先端総合学術研究科先端総合学術専攻〔博士課程(一貫制)〕	渡辺 公三	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>立命館大学では、1996(平成8)年1月に学園の第5次長期計画委員会において研究活動の発展との連携によって研究者養成機能を抜本的に強化する方針が提起され、以来、様々な角度から検討が進められた。結論として既存の学部には附属する研究科とは異なり、研究活動を活発に展開してきた研究所・センター群と連携して先端的領域の開拓を図る、一貫制博士課程による独立研究科としての新たな研究者養成システムを提起した。それが、1, 2年次の基礎的修練と3年次以後のプロジェクト研究への参加による院生教育を組織的に展開しようとする先端総合学術研究科先端総合学術専攻である。</p> <p>2000(平成12)年に当該研究科の設置委員会を発足し、前年より新設した大学院部の副部長を設置委員会事務局長に任じ、全学的な議論を経て2003(平成15)年に開設し、本学において初めて一定数の大学院専任教員(大学院教授)を配置した。開設以来、定員充足率は高く、問題意識の高い院生の研究活動はきわめて活発である。研究科のカリキュラム自体が新たな研究者養成プログラムの提起といえるが、これをさらに高度なプロジェクトベースプログラム(PBP)の体系に完成させようというのが今次の申請目的である。</p>			

機 関 名	立命館大学	整理番号	a034
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>先端総合学術専攻のカリキュラムは、自立したプロジェクト参加・推進者として院生を育てることを目標とする。そのため、明確なテーマをもった者を入試の研究計画書によって判別し、世界で通用する基礎能力を養成し(講読演習の重視)、これからの研究に必須な多様な研究スキルを獲得させ(独自のスキル科目)、プロジェクト運営の能力と責任感を養っている。また3年次以降に参加するプロジェクトと院生のテーマがうまく接合すること(予備演習での擦りあわせ)が重要であり、そうしたプロジェクトを構築する能力をもったリーダーの存在が重要である。専任担当者のそうしたプロジェクトリーダーとしての力量は、例えば開設以来の競争的研究費獲得実績、出版業績にもうかがえる。また、海外から著名な客員教授を系統的に招聘している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>開設以降2年半の実績の上にたち、構想のさらに高いレベルでの実現のために、今次の「プロジェクトを基礎とした人社系研究者養成」プログラムを申請する。</p> <p>20世紀の自然科学の展開のインパクトを受けとめつつ人社系を革新する研究者養成を目指す先端総合学術専攻は様々な先駆的な試みを実施しているが、今次プログラムにおいては、プロジェクトベースプログラム(PBP)のいっそうの高度化のために①院生が最終的な博士論文の完成を達成するための論文構築の基礎能力を強化する、②本研究科のカリキュラムの特徴のひとつである「スキル系科目」の強化によって研究者としてのスキルの質の向上を図る、③国際シンポジウムの準備過程への院生の参加、プロジェクト研究における協働と連携の能力を実践を通じていっそう強化する、④プロジェクト・マネジメント体制を整備する、⑤人的ネットワークをさらに拡大強化することにより、新たな研究者養成プログラムのモデル構築を目指す。</p> <p>学内研究所、研究センターと連携して本研究科が展開する研究プロジェクト、そして数年に渡る準備のうえに本研究科が主体となって開催される国際的な研究集会には、学内のみならず、学外の研究者も参加し、それによって学外の人的資源をも院生教育に活用することが可能となっているが、今後は新研究科としての完成年度に向けて、本研究科の研究者養成の理念とも共鳴しあう主題に取り組む官民のシンクタンクおよび海外の諸研究機関との共同研究の実現、官民シンクタンクの研究者を招聘した連続講座などを組織し開催してゆきたい。こうした活動は、院生の海外研究機関への派遣あるいは留学、研究スタッフとしての雇用開拓にとっても重要な意味をもっている。その実施計画については12. の項目に詳述する。</p>			

機関名	立命館大学		整理番号	a034
6. 履修プロセスの概念図				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <現在のプログラム> <今次申請プログラムを活用したモデル例> </div>				
4月 1 年次	入試合格 入学	入学前ガイダンス、面談、参考文献リストの提示 研究科メーリングリスト・各種研究会への参加 指導教員（3名）申請書・研究計画書提出→面談指導		
9月 2 年次	基（プロジェクト・サクト 礎プロジェクト・サクト 科目プロジェクト・サクト 目プロジェクト・サクト 共同演習 目共同演習 研究受 講員）	1セメスター1テーマでの演習 担当者による演習、博士予備論文報告会、個別指導による研究課題の絞込み 基礎共通科目・基礎専門科目・サポート科目の受講	サポート科目の履修においてTAの援助により研究テーマに関するアンケートやインタビューを実施、博士予備論文の作成に向けた調査資料とする。	
4月 7月 2月 3 年次	サクト 共同演習 目共同演習 研究受 講員）	博士予備論文報告会における公開研究発表(博士予備論文構想のプレゼンテーション) 博士予備論文提出（1月末） →審査・口頭試問（2月中旬）→プロジェクト研究参加のための資格判定→結果発表（2月下旬）	論文指導スタッフによる基礎指導を受け、博士予備論文を作成	
4月 3 年次	プロ ジェ ク ト 研 究 員		研究科長・主事、テーマ責任者、研究プロジェクト・マネージャーとの協力でコーディネートされたプロジェクトに共同研究員として参加 海外留学するが、留学中にも継続した体系的な研究指導を受ける	
4月 4 年次	プロ ジェ ク ト 研 究 員	研究テーマに適合したプロジェクト研究に共同研究員として参加。その他のプロジェクト研究にも準共同研究員として参加することが可能。 共同研究員として参加するプロジェクト研究においては、一研究者として研究成果の発表の義務を負う。	海外での学会発表のために、外国人スタッフによる論文とプレゼンテーションの指導を受ける 院生のイニシアティブで国際研究集会を組織	
4月 5 年次	博士論文 構想発表 会による 公開研究 会（博士 論文構想 のプレゼ ンテーシ ョン）	博士論文構想発表会による公開研究会（博士論文構想のプレゼンテーション） 課程博士論文提出（12月末） →口頭試問（1月）→公聴会（2月）	シンクタンクから招聘された講師との研究交流を行い、研究者レベルのインターンシップに参加したことがきっかけとなり、企業における研究職に内定が決まる	
12月 3月		課程博士論文提出（12月末） →口頭試問（1月）→公聴会（2月） 課程博士学位授与		

機 関 名	立命館大学	整理番号	a034
<p data-bbox="165 203 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="193 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="193 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="193 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="193 878 1209 907">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="178 972 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1021 1430 1335" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1021 1430 1240">・人文学をディシプリン型からプロジェクト型に転換するという理念が教育システムに活かされており、プロジェクト演習やスキルサポート科目、リサーチマネジメントの指導など、教育方法がきわめて斬新かつ体系的に導入されているとともに、学長のリーダーシップの下、学内の支援態勢も整っており、人文学の新しい可能性に向けた教育に対する取組への教員の熱意も感じられ、実現の可能性が高いと言える。 <li data-bbox="165 1261 1430 1335">・教育プログラムの実現に向けて、養成する人材像の一層の明確化を図り、その実現に向けて、創意工夫ある取組を推進することが望まれる。 			